

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	視覚的な支援、行動の理由を考える、離席への対応
【学校、学年】	小学校 【 1 】年
【状況、様子 等】	<p>○学級の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時は1年生27人中7人が自・情学級在籍。 ・入学式当日、特別支援学級在籍7人中2人が離席をして体育館内を走るなどの行動があり、特別支援学級担任はその2人に対応。他の5人は通常の学級の児童と一緒に式に参加した。 ・4月の授業参観からほどなく、5人の中の1人の保護者より「通常の学級での学習を増やしてほしい」旨の相談があり、校内で検討して1教科ずつ通常の学級での学習を増やした。その後、転籍希望者が増え、計3人がほとんどの授業を通常の学級で学習した。(次年度から、通常の学級への転籍を希望された。)
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無に関係なく、できたことはほめ、間違っていたら正しいやり方を伝え、励まし、努力する姿勢を認めるようにした。(心理的安心) ・「ありがとう」という言葉を随所で使うことで、相手を認め感謝の気持ちを育むよう努めた。(学級経営) ・日頃から児童の様子を観察し、行動の理由を考えたり、児童と話して思いを汲み取ったりして、必要な支援をするよう心がけた。(支援体制) ・支援方法については、通常の学級担任と特別支援学級担任で共通理解を図りながら常に同じ目標に向かって取り組むようにした(連携)。 ・ルールややり方を伝える時には、絵カードなど視覚的な情報と言語指示を組み合わせるようにした。必要に応じてモデルを示し、繰り返して取り組むようにした。個別対応が必要な児童は座席を前にしたり、机間指導で対応したりした。(合理的配慮) ・ある程度定着したら、お互いに教え合う時間(ミニティーチャー制度)を確保した。(協働学習) ・離席の多い児童への配慮として、自分の考えをまとめる時に最初は隣の人と相談し、その後席が離れている人と相談する「おさんぼ相談」の時間を設定した。(学習支援)
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組む姿勢を認め励ますことで、児童同士もお互いの良さやがんばりを認め合うことができた。 ・できている人のがんばりを具体的にほめることで、その人のがんばりを見て自分もやってみようという意欲につながった。 ・児童同士で教え合うことで、みんなで協力して取り組もうという態度につながった。